

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271900258		
法人名	(株)セブンワーカーズ		
事業所名	グループホーム天鼓		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台10-15		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* "美味しい食事は元気の基"との想いで、ご利用者様の希望を伺い食事を作る。お店からの出前、(〇〇のラーメン、美味しいのよね)、(今度は〇〇を食べたい)などと、食事を楽しんでいる。 \* 1日おきに入浴、毎食後の口腔ケアを行う。昼食後の歯磨きは、スタッフがつききりで介助している。月1回の訪問歯科、Drより、「口腔内はみんなきれいです」との評価を頂いている。\* 職員のコロナ対策の徹底。出勤時の手洗いやうがいの励行、検温や体調、前日(休日)に出かけた所を記録している。口腔ケア用消毒液や個々にコップを用意している。職員もコロナ対策として昼食後に消毒液を使った歯磨きをしている。\* 利用者様が、ご本人の意思・行動を自由に行い、会話ははずんで、途切れない明るさがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「美味しい食事は元気のもと」を合言葉に、利用者が食べたいものを献立に活かしている。畑で採れたさつま芋を天ぷらやスイートポテトにしたり、利用者と一緒に新米でおにぎりを作るなど、食事が楽しくなるよう工夫している。利用者調査や運営推進会議でも「食事が美味しそう」「皆が喜んで」とのコメントが見られる。また、身体拘束をしないケアの実践では、玄関や居室の窓は施錠せず、利用者が自由に動けるようにしている。身体拘束や虐待についての勉強会を実施し、職員が考えた「言葉の暴力は致しません」のスローガンを掲示するなど、職員の意識も高いことがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	①.ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	① ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	①.毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ③ たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	①. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1 ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主体はご利用者様であり、礼節と尊厳をお守りする事を基本理念としている。毎朝年間目標と理念を共有している。ご利用者様のご希望が叶うように、スタッフは努めている。	毎朝、理念と年間目標を確認している。年間目標は理念に基づいた行動指針として、職員で話し合い決めている。レクリエーション活動の参加が難しい利用者には、職員と一緒に好きな歌を唄うなど、利用者主体の支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ゴミ0運動に、ご利用者様と一緒に参加している。幼稚園・保育園・小学校から招待状を頂き運動会にも参加してきたが、今年はやらなかった。ゴミ集積場を利用しているので、当番で掃除している。	自治会に加入しており、回覧板は利用者と一緒に届けている。地域のゴミ0運動には利用者も参加している。今年度はコロナ禍により中止になったが、例年は地域の幼稚園などの運動会見学や買い物など、日常的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、生活の様子を報告している。認知症の勉強会を行っている。近隣や地域の方々も参加し、意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の、日々の生活の報告している。その中で問題のあるなしにかかわらず、意見交換をしている。生活の方向づけ、行事などを考え意見をもらっている。	運営推進会議には市役所職員、市議員、自治会長、近隣住民、家族など多彩なメンバーが参加している。会議では介護についての相談や災害時の避難場所についてなど、活発に意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらっている。施設ケアマネ会議への参加や勉強会にも参加している。新型コロナについても意見交換をした。	運営推進会議には必ず市の職員が参加している。また、施設ケアマネ会議への参加や勉強会などとおして、連携を図っている。市とは、日頃から協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ナースを中心に、身体拘束の勉強会を行っている。施設の玄関や居室窓は施錠せず、ご利用者様が自由に動けるようにしている。センサーマットやミトン、つなぎ服も使用していない。ベット柵も2点にしている。ベット上での四肢抑制もしていない。	身体拘束に関する指針を整備し、身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関や居室の窓は施錠せず、職員が考えた「言葉の暴力は致しません」のスローガンの掲示など、職員の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどういう事かと言う勉強をしている。更衣介助時に内出血の有無やヒフ観察を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度は社内研修で学んできた。成年後見のついている方がお一人おられ、後見人に日常の事を報告している。家族会に出席してくれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームとは、どんな制度の中で成り立っているか。理解して頂き協力頂いている。契約に先立って書面でグループホームのあり方と経済的負担について説明を行っている。国の政策に変化のある時はその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に運営推進会議を行っているが、市役所をはじめ地域の老人会、警察、民生委員、市会議員など8~9名の参加がある。避難訓練に参加してくれる事もあり、災害時はどこへも避難しない方が良いと言う意見でまとまっている。今は発電機の事を話し合っている。	運営推進会議には必ず家族も参加して、活発に意見交換をおこなっている。家族の来所時には声かけて話しやすい環境づくりを心がけている。家族から小型発電機整備についての提案があり、情報を収集する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	災害時の備品などに関しての意見もでる。3.11の時ご飯をたくのが大変だったので、ガスの炊飯器を買おうと言う意見があり、購入した。シフト希望は毎月スタッフに出してもらい、病気などへの配慮を手厚くやっている。	日頃より職員の話聞くようにしており、会議などでも意見が表明しやすい環境がある。勤務シフトは早番、遅番、午後みの勤務など職員の希望に応じて柔軟に対応している。職員から「停電時にもご飯が炊けるようにガス炊飯器も準備したい」という提案を受けて購入した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家族状況、健康状態を考慮し、シフトを考えている。永年勤務者には、表彰している。ありがとうカードを作り職員間で、助けた事など記録して毎月の研修会で、施設長からクオカードで表彰される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修と、介護福祉士をめざして実務者研修に出席するなど応援している。シフト上では、優先して休みがとれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設ケアマネ会議に参加し、天鼓会議等にて、報告している。(コロナ禍であり、今年は開催できないでいる)		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と向き合う時間を持ち、不安や要望を基にご本人の心の中にある気持ちも、くみ取れるようにゆっくり話を聞いている。すぐに知り合いの人を見つけたりして、スムーズに入居できていた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今、家族が何に困っているかを聞き、不安な事に対しては、サービスや、やり方等について丁寧に説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族や本人に体の事と心の事、気になっている事などを細かく伺い、家族との良い関係性を保つ事ができ、安心して過ごして頂ける説明や話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(出来る事はやらせて下さい)と、言ってくれる利用者様と一緒に、モップがけをしたり、お盆拭き、野菜の皮むき、洗濯ものたたみ、花壇に種をまく等行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の介助は、本人とご家族様が納得すべき事だと思っている。家族にも時間がある時は参加してもらってきたが、コロナの事があってからは、共同作業が遠ざかっている。検温や消毒後ベランダにて面会をお願い、面会拒否はしていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まではなじみの床屋さんや美容院に行き、カット、毛染め、パーマをかけていたが、ご本人の体調やコロナ禍の為、今は、美容師さんに来て頂き、施設で実施している。	かかりつけ医への受診、馴染みの床屋や美容院の利用など、これまでの関係が継続できるように支援している。友人や教え子などの訪問もあり、利用者が築いてきた馴染みの関係の継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	帰宅願望が強い利用者様に対して、利用者仲間から(今日は泊まりよ、あなたの部屋はここよ、寒いから明日にしたら)と、声を掛けられ気持ちを切り替える事が出来たりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご近所の方が多いため、買い物の途中にお会いする事もある。その後の状況を伺うこともある。コロナ禍の為に葬式やお見舞いは遠慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活習慣などがあるので、納得するように介助している。こだわりのなくなった人に対しても、声かけなどで、意向を聞いている。	日頃から積極的に声かけをしており、利用者の発する言葉や表情などから思いを把握するようにしている。意思疎通が難しい場合は、利用者の表情を観察し、どういう場面で笑顔が見られるか、不快な気持ちになるのかなどを探りながら、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活に主体性のある関わりを持ってくれる人には、声かけし、どうしたいかを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	TVをつけ見ている人、みんなとの共同作業に参加している人、となりの人との会話もできる人、午前、午後にベッドで寝る人、リハビリやっている人みんな状況に合わせて介助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員でブレインストーミングなどして、利用者様の理解に努めている。家族に依然の生活の事を聞いたり、病歴を聞いたりして、現状とつながる努力をしている。コロナ禍の中では、郵送や電話の事が多い。	心身の状況、家族から聞き取った生活歴などの情報を基にケース会議で職員間で話し合い、介護計画を作成している。場合によっては主治医や家族も参加してケース会議を開催することもあり、関係者の意見を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で全体作業に加われる時もあるが、個別リハビリのある時は、それを入れたり、湿疹ができた時は職員みんな、入浴の介助の仕方を話し合い、共有し、介助していく。変化のある時は本人の状況に合わせて、介助目標を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日には、散歩や直売所に買い物に行こう、あれが食べたい等、盛り上がりに対応し、対応していく。その、のりが拍手につながったり、食欲につながる。楽しい一時である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園への散歩には、近隣の皆様のご協力を得ている。買い物は近くのコンビニや直売所を利用する。近隣の美容師にカットや毛染めをしてもらう。マッサージの方にもきてもらい浮腫みをとってもらい、爪を切ってもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのDrや精神科医、訪問歯科による月1回の往診、受診。緊急時は主治医に連絡したり、受診に出かけたり気軽に出来ている。コロナの問診票も下さって入居者様だけでなく、職員皆で分けて協力体制を作っている。	医師が月1回来所し、利用者の健康管理をおこなっている。以前からのかかりつけ医の受診や、眼科などの専門医の受診時にも同行支援している。主治医とは良好な関係があり、緊急時の対応も可能である。看護師が職員として勤務しており、いつでも相談できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内看護師には、いつでも個々の利用者様の体調について相談や指導を受ける事が出来る。Drの指示も分かりやすい言葉で、家族や職員に伝えてくれる。訪問看護師にも日常的に報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携にて情報交換や医療相談が出来ている。入院時の速やかな情報提供、退院時、ご本人が困らないよう情報収集をする。家族とも良く、話あっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に於いてのご家族様の希望を伺う。体調変化に伴い、主治医・本人・家族・施設長・NS・スタッフにより、今後の方針について、話し合う。変化により何度も話あいを重ねる。身体変化については、常時家族に連絡をしている。コロナ禍であっても心配してきて下さる家族もいる。	入居時に重度化・終末期ケア対応指針にそって説明をしており、家族の希望を確認している。食事が摂れなくなってきたなど状態が変化した段階で、再度家族、主治医、看護師などを交えて話し合う機会を設けており、職員、関係者が連携して支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災や消防訓練をやっていたが、コロナの関係で自施設内でやるようにと、言われていて、1月にやることで、消防署へ申請提出してある。1月は救急救命・避難訓練・消化訓練を行う事になっている。スタッフ全員参加している。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	天鼓は建築が相当しっかりしているため、家族と何度も話し合って全員避難しないことにしてある。周りが密接していない、高台である、等。	年2回職員全員が参加して、通報、避難、消火、救急救命などの訓練を実施している。運営推進会議では、近隣住民から災害時などには水や食料を届けたいとの協力の申し出があるなど、地域との協力体制が築かれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	友達言葉を使わない様に心がける。プライバシー保護の為、居室ドアにのれんをかける人もいる。トイレ介助中は、入り口を閉める。出来ないことがあっても失礼な声かけはしない。	理念でもある「尊厳ある人生を支える」をモットーに、失礼な声かけをしないということを心がけている。トイレ介助はドアの外で見守るなどプライバシーの確保にも配慮している。言葉遣いなどで気になる場合は、その都度注意して意識付けを図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクの時には、二者択一にする等利用者様の希望に耳を傾けている。〇〇が食べたいなどの意見も安全に考慮した上で、希望に添えるように提供している。TVなども自由にリモコンを使用し楽しんで頂く。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩したくないと、日光浴を希望される方には、無理じいせず、次の機会の散歩にしたり、制作物や作業等も急がず、個人のペースや出来る事を頑張られ、難しい時は一緒に行く。希望されなくても、声かけの工夫をするが、無理はしない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ対策の為、散髪や美容院には行けないため、1、2か月に一度、理容師が来所し、髪型を整える。買い物や外出もままならない為、衣料品店に来所してもらい、好みの衣類を購入し、入浴時は一緒に着替えの準備・衣替えの支援をする。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきを行って頂いたり、出来る方は、お茶や食事のあとに、食器を台所に出して頂く。テーブルやお盆拭きをお願いしています。	利用者の希望を聞きながら、バランスを考えた食事を提供している。利用者は野菜の皮むき、ゆで卵の殻むきなどできることに参加している。「おいしい食事は元気のもと」のスローガンのもと、畑で収穫した野菜なども献立に取り入れ、食事を楽しむことができるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶を飲むのが苦手な方もいらっしゃるの で、果物を召し上がったり、お茶がすすむお やつを提供します。飽きないようにジュース 類やミルクレー、甘酒なども飲んで頂いてい ます。お肉が苦手な方は別メニュー、時々 出前を取る等楽しい食生活を送ってます。 誤嚥の心配な方はトロミをつけ食事中見守 る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	月1回訪問歯科による検診で、歯磨き指導 を受ける。毎食後歯磨きを行い、昼食後は 職員が一人一人仕上げ磨きの介助を行う。 一人では難しい方は毎食後介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し声かけ している。一緒にトイレまで行ってドアの外 で待っている。	利用者個別の排泄パターンを把握し、声か けにてトイレでの排泄を支援している。夜間 帯も利用者の状況に応じて、トイレ誘導や排 泄後の後始末などの支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	食事やおやつ時は水分を沢山とれるよう工 夫している。夏はスイカを毎日おやつに出し ました。秋になってからはバナナジュース を作り、散歩や日光浴の後摂取していた。 排泄-2日の時、起床時に牛乳を飲んでもら う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のこだわりの強い人がいる為、入浴表 にシールを貼る担当になってもらった。声か けしても拒否のある時は少し時間を置いて お誘いする等工夫をする。足の冷たい人は バケツにお湯をくみ足を暖めながら体を洗う などしている。入浴出来ない時は清拭して いる。	入浴は隔日に実施しており、時間帯は利用 者の状況に応じて柔軟に対応している。日 によって入浴剤を変えたり、湯加減も利用者の 希望に応じて対応している。入浴時には歌を 唄ったり、職員とゆっくり話をするなど、利用 者にとって楽しい時間となるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	昼食後自室にて休息する人もいる。ソファ が好きでTVを見ている人もある。夜勤者は 出社するとすぐに、各室を回り、室温を確認 し、夏は冷房を入れ、冬はホッカロンを入 れておく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬は看護師から説明があるが、効用が書い てあるものは、個人の日々の記録と一緒に ファイルされているので、職員が読むことも できる。配役は看護師が行っている。主治 医は月1回来て、薬の相談は月1回看護師 が行き、主治医と連携している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLの状況に応じ、お茶を入れたり運んだりしている。車椅子に乗る人、押す人、助け合っている。洗濯物をたたんだりするのは、みんなで行っている。カラオケや作品作りは自由に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今でも、基本的に天気良ければ隣の公園をひと回りする。行かない方は、ベランダで日光浴。100m位の生産者直売所へ買い物に行く。畑に芋を植えたり掘ったり、花植えもしている。隣の方が散歩と一緒に連れて行っていたが、コロナで来られなくなった。	天気が良ければ隣接する公園に出かけている。近くのコンビニエンスストアや直売所に出かけるなど、日常的に外出できるように支援している。近隣住民が利用者と一緒に散歩をしたり、家族も一緒に車で出かけるなど、外出の機会を多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で外出を控えている。例年は季節ごとのイベントに出かけていた。好きなお弁当を自分で選びお菓子など買っていたが、外出できないのである事がない。金銭管理の出来る人はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から荷物や手紙を頂いた時はスタッフと一緒にお礼の電話をする。家族から会議への出欠の有無について等電話があれば、ご本人を呼びましょうかと、必ず声をかける。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーをご自分で作っている。季節ごとの制作物を、全員で作り壁に貼っている。室には、花を飾っている。	利用者が安心して過ごせる空間づくりを心がけている。温度、湿度は適宜確認しており、湿度が低い場合はバスタオルや洗濯物などをかけて調整している。室温についても足元が冷えないようにファンヒーターも併用しながら、居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに座れるように椅子やソファで、お話をしたり休む人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真をもって来て飾る人やスタッフがとった写真を飾る人、家で使っていた家具を持ってきて使用している人、家具転倒防止の為、もって来れない人いる人もいる。それぞれが、個性のある居室を作っている。	明るく、清潔で利用者が落ち着いて過ごせる場所となるよう配慮している。使い慣れた椅子に座り、新聞や雑誌を読んだり、三味線の師匠をしていた利用者は三味線を持ちこむなど、それぞれが居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事をスタッフが理解して、得意な事を生かせるよう声かけをしている。		

【評価機関】